

先人達の努力によって、その地位を確立した川根茶。しかし現在、日本茶を取り巻く状況は厳しさを増している。銘茶産地として名を馳せたこの地域とて例外ではない。いま、打開に向けてどんな対策を講じているのか。さまざまな角度から現状を打開しようとする人たちに傾向と対策を聞いた。



日本の農業全体が厳しい傾向にある 茶農家と我々が相互に協力しあって、 チャレンジし続けていくことが大事

【第2章】

打 開

銘茶産地の苦悩そして可能性



JA大井川農協茶業部
川根茶業センター
芦沢哲哉センター長
Ashizawa Tetsuya

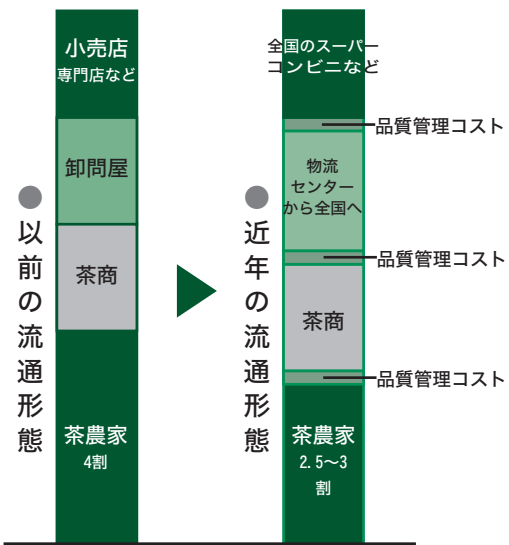
長年JA大井川中川根支店で営農を担当。茶の生産から流通まで指導に尽力した。今年川根茶業センター長に就任。長年蓄積してきたノウハウを生かし、川根茶の活性化に向け鋭意努力中。日本茶インストラクターとしても活躍している。

ペットボトル茶の普及や低価格指向、生産コストの増大など、リーフ茶の売れ行きが厳しい現代。この地域の現状と対策について、川根茶業センター 芦沢哲哉さんに聞いた。

こ数十年で流通形態が大きく変化しています（左上図参照）。以前は小売店や

茶専門店への販売が主でしたから、流通も単純で生産者も利益を確保できていました。しかし現在では、卸し先にスーパーやコンビニが増えました。これらは全国に多くの店舗を構えており、商品は「物流センター」で管理されます。この物流センターから、全国に配送されるのですが、店舗

流通形態・品質管理コストの変化



農家を直撃するコスト増大の影響

上のグラフは茶生産による利益配分を表した例。左は以前、右が近年を表している。以前、茶農家の利益が4割だったと仮定すると、現在は物流の変化や品質管理にかかる経費増が、茶農家の減収となって現れる。この他にも、燃料代・肥料代の高騰により、日本の農業全体が厳しい現状にある。

数は数え切れないほどありますから、当然莫大な運搬経費や管理コストがかかります。この経費の増大が茶農家の収益の減につながってしまうのです。

また、品質管理面でもコストは増大しています。たとえば、この川根茶業センターでは、製造工場に入るときには、エアシャワーやアルコール消毒など、徹底した衛生管理をします。スリッパも、工場専用履き替えるほどです。現在消費者は、安心・安全な食品を求めています。この「食の安全」を確保するためには、

金属探知機や、異物除去機、また農業散布回数管理するためのパソコンを導入するなど、これまで必要としなかった投資をしなければなりません。「安全をキチンと証明できる商品でない」と扱ってもらえませんし、川根茶ブランドの信用問題にもつながってしまいますから一番重要な部分でもあります。

今、消費者が求めているお茶というのは、総じて低価格志向です。会社の業務用にはペットボトル茶を、家庭で飲むお茶にはティーパック

interview

丹野園 丹野浩之さん・千春さん（水川）

川根茶は県内シェアが2%ほどしかない生産量の少ないお茶です。品質の高いお茶を作るため日々努力を惜しまず頑張っています。川根茶は、品評会などでも評価はされていますが、それが売りに直結していないのが厳しい現実です。今後は作り手、流通、売り手が膝をつき合わせ、同じ目線で「何が問題なのか」を話し合っていく必要があると考えます。

をとという図式になってきています。先ほどの話にも出てきましたが、現在では、お茶はスーパーやコンビニで買う時代です。こういった店は、日常生活で使う低価格商品を主に扱っています。値の張る高級茶を買う人がどれだけいるかという事です。

また、消費者はお茶のブランドにはさほどこだわっていないという意見もあります。品質の高さだけでは選んでもらえない時代なんです。流通にかかる経費や品質管

理コストなどは削ることができません。その中で利益を上げるためには、人件費など生産コストの削減や、効率よく生産するため茶園の基盤整備を進めるなど、抜本的な対策が必要となります。後継者不足などの困難な課題を解決するためにも、積極的な取り組みが必要なのです。

川根茶は一つのブランドですが、全国的に見ると「静岡茶」という名前の方が先に立ってしまい、まだまだ名前が浸透していないと感じています。しかし現在、国民の高級志向は高まりを見せています。今後いかに川根茶の品質の高さを堅持しながら、高級さを求める顧客を開拓していくか、その方法を考えていかないとなりません。また、どんなニーズにも的確に対応できる川根茶にしていくために、ティーパックやペットボトルなどにも取り組んでいく必要があると考えます。新しい品種「天空の茶」などもアピールしながら、ここならでは戦略を打ち出していきます。

県外者の声 ● あなたは川根茶を知っていますか？

【川根茶ブランドの知名度をみる】

「あなたは川根茶を知っていますか？」。全国4カ所に住んでいる人に、抜き打ちで聞いてみました。「川根茶は全国的に知名度が高い」といわれていますが、本当にそうなのか、正しい認識なのか。調べてみました。

- 宮城県 30代 男性…最近ペットボトルになっているのを初めて見ました。
- 千葉県 30代 女性…よく知っています。川根茶は大好きです。
- 石川県 50代 男性…初めて聞く名前です。
- 愛媛県 30代 女性…聞いたことありません。

関東圏では知っているという声もありましたが、全国レベルでの知名度は低いようです。

町外者の声 ● 「静岡茶」は良く耳にしますが「川根茶」と言う人はいませんね。

静岡市在住
木村幸男さん

Kimura Yukio
静岡県ボランティア協会の理事、静岡市市民自治推進審議会副会長など数々の要職につき多忙な日々を送る。

わたしの母は川根本町徳山の出身です。このため、わたし自身も幼少の頃から、川根茶をずっと飲んできました。そして今では東京や大阪の友人に、川根の新茶を贈るほど川根茶のファンなんです。友人たちに感想を聞くと、「宇治や狭山に比べて武士のような味わいだね」と評判は悪くないのです。

しかし、みんな「静岡茶」とは言っても、「川根茶」とは言わないですね。日常わたしの周りで、大井川鉄道やSLなどの言葉はよく耳にするんですが、誰も「川根」という言葉を口にすることはないんです。わたしは「川根」という言葉の響きがとても好きなので、いつも残念に思うんです。

